

ケアマネの部屋

発行日:平成30年3月31日(No. 22)

発行元:浜松市介護支援専門員連絡協議会

ブログ:はままつケアマネの部屋

<http://keamanenoheya.hamazo.tv/>

「遠州の道標」の立ち上げ

遠州の道標代表

ケアセンター芳川 看介護部長 大西君江氏

私は2年半前、長年勤務した急性期病院を退職し、介護老人保健施設に再就職しました。そして、ご利用者の終末期を通して地域間には大きな格差があることを知りました。

そのご利用者は、皮膚癌に侵されてボコボコに隆起した腕から、多量の出血や浸出液がありました。看護師は外傷や褥瘡の知識しかなく、皮膚癌の処置は初めてです。そこで、処置方法を教えてもらおうとかかりつけ病院に相談しましたが、「ホスピスを紹介してある」との理由で受診は叶いませんでした。ご家族は最期まで慣れ親しんだ施設での生活を望んでいました。

そこで私は、かかりつけ病院の皮膚排泄ケア認定看護師に電話で相談しました。認定看護師はご利用者のカルテから状態を確認し、現在の状況を写真に撮って送るよう指示しました。そして、洗浄方法や軟膏の選択など理由を含めて指導してくれました。

その後も、症状の進行や部屋中に漂う悪臭への対策もアドバイスして頂きました。

そして相談から2ヶ月後、ご家族が望む穏やかな看取りができたのです。

この事例を通して、医師や薬剤師、認定看護師など、質の高い多くの資源を持つ施設とそうでない施設があり、地域全体の質を上げるには、今回の事例のように、それらの資源を互いに有効活用する必要があることを痛感しました。

この思いが動機となり、私は平成29年4月、行政を含む8施設と協働して「遠州の道標」というネットワーク（静岡県看護協会看看連携を基盤とした地域包括ケア推進支援モデル事業）を立ち上げました。

活動としては、「浜松市における地域包括ケアシステム」、「急性期病院における終末期患者の退院支援の現状と課題」、「地域包括支援センターにおける終末期患者を含む利用者からの相談・悩み、それに対する支援」について担当機関からの講義と検討会、参加機関の施設見学、「看取りの未来を考える」をテーマに講演会・グループディスカッションを行いました。

この活動から、介護支援専門員のほとんどが看護師ではなく介護福祉士である事、介護支援専門員は、病院は敷居が高く看護師に聞きにくいと感じている事などを知りました。介護支援専門員の力量が、地域看護・介護の質を左右するのは言うまでもありません。今後は、介護支援専門員の方々と遠州の道とが繋がって、共に活動していける体制を作っていきたいと思っています。

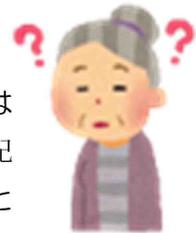


浜松市オレンジシール・オレンジメール (徘徊高齢者早期発見事業)

浜松市では、平成 28 年 6 月より浜松市オレンジシール・オレンジメール事業に取り組んでおります。ケアマネジャーの皆様にも事業についてご理解いただき、オレンジシールの必要な方を高齢者相談センターにつなげていただくことや、オレンジメール登録へのご協力をお願いいたします。

〇ひとり歩きとは？

「認知症」の症状のひとつに、「ひとり歩き」があります。一般的には「徘徊」という言葉が使われており、浜松市でも事業開始当初は「徘徊」という言葉を使っていました。しかし、認知症の人やご家族への配慮として「徘徊」という言葉を使うことを差し控え、今年度途中から「ひとり歩き」という言葉に変更しました。



認知症の人の「ひとり歩き」は、やみくもに歩き回っているのではなく、その人自身の思いや目的があるのです。自宅へ帰れなくなったり、自分が行こうと思っていた行先がわからなくなったり思い出せなくなったりし、不安な気持ちを抱えて歩いているのです。

こういった認知症の人や家族の不安をできるだけ早く解決するために、浜松市オレンジシール・オレンジメールの事業を開始しました。

〇浜松市オレンジシール・オレンジメールとは？

「ひとり歩き」により自宅に帰れなくなった人を警察や行政、高齢者相談センター（地域包括支援センター）、はままつあんしんネットワーク協力事業者、関係機関、地域の方々の方でできるだけ早く、ご家族の元に帰れるようにする事業です。

2つの取り組み(オレンジシール・オレンジメール)で 認知症の人を地域で見守り助けます。

どのような
取り組み
なの？

※ひとり歩きの心配がある
高齢者は
「オレンジシール」を
靴に貼る



家に帰らない
…心配!



ご家族が
警察署に
相談・届出



浜松市から
「オレンジメール」を
協力者に配信



協力者が
地域で搜索協力



発見

よかった。
地域の見守りが
あると安心だね。

※自宅等にお住まいの人を対象とします。
若年性認知症と診断された人も含みます。

●オレンジシールの交付やオレンジメールの配信は、ご家族等の同意、申請のもとに行われます。

●発見された後は、その旨のメールも配信されます。

○オレンジシールとは…

認知症により「ひとり歩き」の恐れがある人の靴に貼る登録番号付の反射シールです。

「ひとり歩き」が心配なご家族等が、お住まいの地域の高齢者相談センター（地域包括支援センター）に相談のうえ、事前に市に登録（本人の氏名や家族の連絡先等）することで交付されます。



なお、登録の情報は市だけではなく、市内 5 つの警察署で共有しており、オレンジシールを発行された人を警察が保護した場合は、速やかにご家族等に連絡し対応します。

○オレンジメールとは…

オレンジメール

浜松市オレンジメール
行方不明情報です。
心あたりのある方は、
〇〇番線
行方不明情報センターまで
ご連絡ください。
住所：〇〇市〇〇区〇〇
郵便：〇〇〇〇
性別：〇〇
年齢：〇〇歳
特徴：緑色の長袖シャツ
黄色のスボン
オレンジシール貼付：★★★★



認知症状により自宅に帰れず万が一所在不明となった時、いち早く安全に発見するために、メール配信の登録をした見守り協力者に行方不明者情報のメール配信を行い、捜索協力をお願いして情報提供を得るシステムです。検索時に「オレンジシール」を目印にすることができます。

○オレンジシール・オレンジメール登録状況 (H30.1.31 現在)

オレンジシール登録者：428人 オレンジメール登録者：1,308人

オレンジシールやオレンジメールの登録者が増えることで、「ひとり歩き」で所在不明となった人の早期発見や早期保護、事故の防止につながります！

浜松市では、認知症になっても、本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らしを続けることができる地域づくりを目指して活動しております。今後ともよろしくお願いいたします。

★連絡先★

浜松市役所高齢者福祉課

医療・介護連携推進グループ

電話：053-457-2105

メール：kourei@city.hamamatsu.shisuoka.jp

登録の方法

こちらから登録いただけます。



登録用QRコード

QRコードを携帯電話のバーコードリーダーなどで読み取り、表示されたURLにアクセスします。

QRコードを読み取れない方は、次のアドレスに直接空メールを送信してください。

「浜松市オレンジメール」登録用アドレス
t-hamamatsu-city.orange@sg-m.jp

**オレンジメールの登録に
ぜひご協力ください！**

平成29年度第2回浜松市介護支援専門員連絡協議会・浜松市介護サービス事業者連絡協議会

合同研修会

広報委員 松岡 徹

平成29年12月2日（土）当協議会と浜松市介護サービス事業者連絡協議会の合同研修会が可美公園総合センターで13:30から16:30まで開催されました。初心者対象と経験者対象の2コースでの企画でした。

初心者向けコースは47名の参加でした。毎年好評なため、ここ4年続けている研修です。

当協会オリジナル資料である「平成29年度版ケアマネジャー実務ガイドブック」を使用して、ケアマネ業務の基本についての説明をさせていただきました。参加されていた皆さんは、改めて基本的な資料や業務の流れが確認でき、メモをとったり、大きく頷いたりと時間もあっという間だったようです。

アンケート集計で講義について「大変参考になった」「参考になった」と回答して下さった方が46名で、ガイドブックについては45名の方が「大変参考になった」「参考になった」と評価して下さいました。

初心者向けコースの様子



経験者向けコースの様子



経験者向けコースの参加者は110名でした。資格更新に伴う研修は「大変」という言葉がひとり歩きしている感もあるため「専Ⅱ対策してる？2016年度更新研修を受けてみました！」をテーマに、実際に更新研修に提出した事例の発表と研修参加の心構えや今後の展望などの話をさせていただきました。

アンケート集計では、105名の方が研修内容の理解ができ、98名の方が今回の研修を仕事に活用できると回答して下さいました。

それぞれのコースで疑問や要望もありました。改善点など役員会で検討を重ねたいと思います。今後も連絡協議会は会員の皆さんと共に成長し、ケアマネはもちろん、ご利用者やご家族にも「浜松市で良かった！」と思っていただけるように、役員一丸となって取り組んでまいります。



浜松市介護支援専門委員連絡協議会広報委員会の舞台裏

在宅サービスセンター やまゆり 鈴木 はまの

光陰矢の如しの言葉の重さを感じる今日この頃です。会員の皆様におかれましては、日ごろから浜松市介護支援専門委員連絡協議会の活動に対しご理解 ご協力を頂きまして厚くお礼申し上げます。

今回は、広報委員会についての活動紹介をさせていただきます。

広報誌ケアマネの部屋は平成 19 年より発行され現在に至っており、様々な情報発信・提供を実施してきております。

いずれの記事も、記事にするまでには、編集会議を行い、発案・調整・依頼の流れを経てから各委員からの情報提供をうけ、内容吟味・修正・確認の実施となります。皆様が何を求め何を必要としているかを考え、会員の皆様に役立つ興味を持って頂ける内容、また、介護支援専門員として日常業務に反映でき研修会や介護保険法改正の動きや市の動向等を知ることができる内容にしたいとの思いで話し合いを重ねながら検討しております。各区からの選出の委員で構成されており、区により動きが異なることもあり、情報提供交換や共有ができる点では話し合いは大いに盛り上がります。

ブログの発信も私どもの活動のひとつです。昨今のご時世により、ブログについてはガイドラインに沿って確認を実施しており、浜松市連絡協議会としての自覚と責任の元に情報提供しております。ブログ発信を通し、情報共有から介護支援専門員としての質の向上、さらには利用者支援につなげていくことができ皆様の業務のひとつを担えることができれば嬉しく思います。

また、周知に関しましては、QR コードの添付をしていますのでご利用して頂ければ幸いです。

少子高齢化等を含み多様化・複雑化する時代の中で、今後の介護支援専門員としての立場は連携の中心としても重要な役割が求められていくと思われまます。そのため、広報委員会としても会員の皆様のご要望等も含み今後に生かせるように取り組んでいく所存でございますので、今後ともよろしくお願いたします。



編集後記

厳しかった寒さもいつのまにか過ぎ去り、庭の木々の芽吹きや路傍の草萌えに、新しい時代へ向けての春を感じる今日この頃です。来年度は新しい元号が決まり、翌年には新しい時代がスタートします。

AI も更に進化を重ねていくことでしょうね。介護保険制度の改正によりバタバタと仕事に追われる毎日ですが、時には自然を感じ、時には社会の変化を感じながら、より広い視野で仕事をしていきたいものです。

さあ、ちょっと一息、春を探しに出かけてみませんか？

広報委員会では今年度も「会員の皆様に少しでもお役にたてば」という思いで誌面作りに取り組んで参りました。ご協力・ご支援いただいた皆様に深く感謝いたします。今後とも広報委員会を宜しく願い申し上げます。

【広報委員会】(副会長) 松岡 徹 (南区) 岡本 留美子 (中区) 木村 若葉 (天竜区) 鈴木 はまの

(西区) 長谷川 和歌子 (浜北区) 松井 江里子 (東区) 成瀬 和紀 (北区) 袴田 佳代子



ケアマネの部屋 QR コード